



昨年、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となった春

の選抜高等学校野球大会は、今年は無事に開催され、大分県代表の明豊高校が大分県勢として54年ぶりに決勝戦に進出した。しかも、決勝戦を含めて、大会を通じて全試合無失策という素晴らしい内容でした▼また明豊高校に限らず、今年の大会は、背番号が2桁の選手が活躍した大会とも評されました。これは日ごろの練習のたまものであり、レギュラーでない、ややもするとモチベーションが下がってしまい、練習もおろそかになつてしまうのではないかと、私の素人考えを見事に裏切ってくれる出来事でした。また、水泳では、2年前に急性リンパ性白血病と診断され、当時は東京五輪への出場が絶望視されていた池江璃花子選手が見事復活し、東京五輪のリレーの選手に内定しました▼前記のごとく、私たちの周りには、その日ごろの努力を突らせた人々がたくさんいますが、私たちはどうしても、その光の部分にしか目がいかず、隠れた努力を忘れがちです。私たちの努力は必ずしも報われるわけではありませんが、成功した人に努力しなかった人はいません。私も少しでも見習いたい今日このごろです（とはいえ、いつも全くできていませんが）。皆さんはいかがでしょうか？

（みやき町 今村 洋一）